

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23138	絵画史（奇数年度開講）	2単位 後期 集中	1～4	講義	沢山 遼（非）

※ 令和2年度のみ偶数年度特別開講

※ 工芸専攻（平成28年度・平成29年度入学生）は25172「絵画史概説」を登録すること

■テーマ 20世紀の絵画（および芸術史）の歴史・展開の再検討。

■授業の概要

この講義では、主として20世紀以降の絵画とその理論的な背景について、多くの視覚資料を提示しながら考察していきます。マレーヴィチやモンドリアンの「絶対抽象」と呼ばれる絵画など、20世紀以降の近現代の美術は、それまでの美術作品にあった明確な主題やモチーフを失い、多様化するとともに、世俗的な現実とのつながりを失っていったように見えます。ですが、彼らは多くの選択肢のなかから、たまたまそのようなスタイルを（スタイルとして）選びとったわけではもちろんありません。そこには芸術や絵画がそのようになる、必然性のようなものがあつたと考えるべきです。この講義では、それがそのようになった必然性をリアリズム（現実主義）という観点から読み解いていきます。また、大まかな歴史の流れについて説明するだけでなく、講義の後半では、個別の作品、作家について詳しい検討・分析を行います。

■到達目標

・近現代の絵画作品についての基本的な理論構成や概念、歴史的背景を学び、美術をはじめとする視覚表象に対する読解能力を高める。

■授業計画・方法

1. 導入
2. クールベ、マネと近代絵画のはじまり
3. 印象派と後期印象派
4. ピカソ、ブラック、マティス
5. マレーヴィチ、モンドリアン、カンディンスキー
6. ダダ、シュルレアリスム
7. マルセル・デュシャン、アメリカン・シーン絵画
8. 抽象表現主義
9. イサム・ノグチ
10. ジョセフ・アルバーズ
11. 近代日本絵画の展開
12. ロバート・ラウシェンバーグ、ジャスパー・ジョーンズ
13. ロイ・リキテンスタインとアンディ・ウォーホル
14. 1960年代以降の絵画
15. まとめ
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・授業内容の理解のためにも、積極的な姿勢で臨むこと。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（授業への参加度、コメントペーパー提出状況等）による総合的判断。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 なし

□テキスト なし

□参考文献 個別のテーマに関しては適宜指示します。下記の文献は参考資料です。

・Hal Foster, Rosalind Krauss, Yve-Alain Bois, Benjamin H. D. Buchloh. Art Since 1900: Modernism, Antimodernism, Postmodernism. London: Thames & Hudson, 2004.